

2023 年 5 月 8 日

気象集誌 (JMSJ) 特集号「豪雨豪雪と水蒸気輸送」

投稿募集

(1) スコープ：

災害をもたらすような降水予報の改善には、数値モデルの高精度化だけでなく、高精度の観測が必要です。豪雨や豪雪には多量の水蒸気供給が必要です。そのふるまいを明らかにすることで、大規模な力学から局所的な豪雨豪雪に至るマルチスケールをまたぐ物理的なつながりを明らかにできるでしょう。そしてそのことが災害を起こすような気象イベントの予報の改良に貢献できるでしょう。

近年の衛星プロダクトや高精度再解析、そして水同位体は、水蒸気源やより高精度な水蒸気輸送と水収支の診断を可能としました。さまざまな数値モデリングや、力学・熱力学的な解析研究もつながりを明らかにするために有効でしょう。また、降水と水蒸気に関する最新の観測手段やデータセットに関する知見を共有することもそのような研究の基礎となります。

本特集号は、豪雨豪雪と水蒸気輸送について、地域や発生期間を限定せずにすべての視点の研究を歓迎します。我々の対象はすべての降水に関係する現象、これに限定されませんが、メソ降水系、熱帯低気圧やポーラーロウを含む多様な低気圧、アジアモンスーンを含みます。様々なプロセスをまたぐ研究—大規模な水蒸気輸送、暖かい海面からの急激な蒸発と地形強制上昇（例えば、台風に伴う豪雨、ヒマラヤの降水、日本の冬季降水）—を大歓迎します。手法の点では、事例解析、統計解析、数値モデリング、理論研究、観測手法やデータセット構築などすべて歓迎いたします。そして我々はレビュー論文も歓迎します。

(2) 論文投稿：

投稿規定をよくご確認ください。

<http://jmsj.metsoc.jp/instructions.html>

下記オンライン投稿システムから投稿してください。投稿時にシステムで特別号

「RainSnow&Moist」を選択してください。同時にカバーレターにも明記願います。

<https://mc.manuscriptcentral.com/jmsj>

投稿された論文は、通常号と同じレビューを経ます。特集号のタイムラインに間に合わないものは、通常号の編集の対象となります。

(3) スケジュール：

投稿開始：2023 年 5 月

投稿締切 (Articles and Review Articles¹⁾): 2024 年 11 月 30 日

投稿締切 (Notes and Correspondence): 2023 年 12 月 31 日²⁾

出版: 2023-2025 年. 受理論文から順次通常号に掲載し, Web 上で special collection とします.

¹⁾ レビュー論文については, JMSJ の規定により, 編集委員会による提案書の承認が必要ですので, まずは特集号編集委員会で審議したのち, 通常号の編集委員会に承認頂く予定です. ご関心をお持ちの方は特集号編集委員会にご連絡ください.

²⁾ JMSJ では原著論文の種別のうち Note の新規投稿受け付けを 2023 年末をもって終了することになったため, それに対応するものとなっています.

(4) 特集号「豪雨豪雪と水蒸気輸送」編集委員会

特集号編集委員長:

Akiyo YATAGAI [谷田貝亜紀代] (弘前大学)

編集委員:

Meiji HONDA [本田明治*] (新潟大学)

Takeshi HORINOUCI [堀之内武*] (北海道大学)

Kimpei ICHIYANAGI [一柳錦平] (熊本大学)

Yoshiyuki KAJIKAWA [梶川義幸*] (理化学研究所)

Yuki KANNO [菅野湧貴] (電力中央研究所)

Teruyuki KATO [加藤輝之*] (気象研究所)

Vinay KUMAR (Texas A&M University, USA)

Yoshihiro TACHIBANA [立花義裕] (三重大学)

Hanii TAKAHASHI [高橋葉仁衣*] (JPL/NASA, USA)

Pingping XIE (CPC/NOAA, USA)

Satoru YAMAGUCHI [山口悟] (防災科学技術研究所)

Wataru YANASE [柳瀬亘*] (気象研究所)

Kei YOSHIMURA [芳村圭] (東京大学)

*JMSJ 通常号編集委員

(5) 掲載料 (Article Processing Charge)

特集号であることの減免はなく, 通常号と同じです. 詳しくは投稿規定ページをご覧ください.

<https://metsoc.jp/jmsj/instructions.html>